

## がんゲノム検査外来紹介

## がんゲノム医療を正しく伝え、診療に繋げる

臨床遺伝医療部 部長 江口 真理子

臨床遺伝医療部では遺伝性と考えられる病気に関して、遺伝子の検査などを行い診断や治療法に繋げるとともに、遺伝や遺伝子に関わる知識や情報を提供し、不安や悩み、問題を抱えている患者さんが理解し納得できるように一緒に今後の方針について考えます。遺伝医療の一つであるがんゲノム医療にも携わり、最新の医療情報を伝え、保険・自費診療による遺伝子検査の案内も行っています。今のがんゲノム医療は、主にがんの組織を用いて、がん細胞がもつ遺伝子の変化を調べる「がん遺伝子パネル検査」に基づいて行われます。検査でがん細胞の遺伝子の変化を解析することで、がんの性質が明らかになり、体質やそれぞれのがんに合わせた治療が可能となります。薬師神先生も述べられていますが、臓器別の薬ではなく、遺伝子変異の種類で使う薬が決まることががんゲノム医療の特徴です。がんゲノム検査を受けるのにはいくつかの条件がありますが、相談はどなたでも可能。がんゲノム医療によりがんになりやすい体質が見いだされ、ご本人だけでなくご家族のがんの早期発見や予防に繋がることもあります。私の専門は小児がん。9月の世界小児がん啓発キャンペーンに合わせて、今年も市民公開講座を行います。がんゲノム医療は日進月歩の分野。セミナーなどで積極的に情報発信していきます。



## PROFILE

えぐちまりこ◎広島大学医学部卒業。2008年より当院、2019年より愛媛大学大学院医学系研究科小児科学教授、附属病院臨床遺伝医療部部長。専門分野は小児科学、血液腫瘍学、遺伝学。出生前から成人までの遺伝医療に携わる。